



Select DAC

D/A Converter
Users Manual



MSB Technology
Select DAC
D/A コンバーター

[取扱説明書]

もくじ

はじめに/MSB Select DAC の概要.....	3
梱包内容/諸注意(電源コード/使用/設置/接続).....	4
クイックスタート ガイド.....	5
セットアップ/接続/操作	
バーンインについて	
リアパネル各部.....	6
入力モジュール.....	7
システムクロック.....	8
アナログ出力.....	9
パワーサプライ.....	10
操作.....	12
リモコン.....	13
リモコンの電池装着/安全に関するご注意(リモコン用電池の取扱について).....	14
メニュー・モード.....	15
トラブルシューティング.....	17
主な仕様.....	18
保証.....	19

はじめに

このたびは、MSB テクノロジー"Select DAC"をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

本取扱説明書には、本機の設置や操作についての重要な情報が含まれています。

本機の優れた機能・性能を存分に発揮させ末長くご愛用いただくため、本説明書を一通りお読みの上、設置や操作の詳細について充分にご理解いただき、正しくご使用くださいますようお願い申し上げます。

[MSB Select DAC 概要]

MSB テクノロジー社のフラッグシップモデル Select DAC は、幾世代にもわたって深化を遂げてきた独自のディスクリート・サインマ
グニチュード・ラダーDAC 方式、超低ジッターFemto クロック機構、優れたヒートシンキング構造など、これまで MSB が培ってきた
優れたフィーチャーの上に、初めて、DAC 構成を L/R それぞれに 8 チャンネル、計 16 チャンネルの高複合パラレル仕立てとし、オ
ペアンプを使用することなく高いドライブ能力と圧倒的レゾリューションによる高 S/N を実現。高音質を極限にまで高めた D/A コンバ
ーターです。

Select DAC のメカニカル・アーキテクチャーは、必要なフ
ァンクションをカスタマイズすることができるフレキシビリティ
を持つモジュラー方式によって構成されています。

入力モジュールは、同軸/光、AES/EBU、MSB 独自のイン
ターフェース PRO I2S や PRO ISL、MQA 対応の QUAD
USB、そして、レンダーラーなどの多彩なデジタル系から 4 系
統を自在にカスタマイズすることが可能です(同軸/光か
AES/EBU のいずれか 1 系統は標準装備)。

ボリュームコントロール機能を有するバランス仕様アナロ
グ出力モジュール(アナログ入力を併備)は標準装備とし
ています。



また、超低ジッターFemto クロックは、標準として世界最高峰のジッターレベルを誇る
Femto 33 Clock(ジッター性能 33 フェムト・クロック)を搭載しています。



FEMTO 33 Clock
ジッター値:33 FEMTO sec.(0.033 Pico sec.)

電源ユニット(パワーベース)は本体とは別筐体となっています。

2x Select Powerbases: 2 台で本体のデジタル系/アナログ系それぞれに
独立して DC 電源供給します。



[梱包内容]

- 本体 [Select DAC (指定モジュール込)]
4x フィート / リモコン / Micro-USB パワーチャージケーブル
- 電源 [2x Select Powerbases]
AC 電源コード2本 / DC 電源コード2本 / 8x フィート / グランドワイヤー
- 取説
- 保証登録カード(はがき)

⚠ 付属電源コードの取扱いについて

本機(電源ユニット)に付属している AC 電源コードは、本機専用のものです。他の機器にはご使用になれません。

⚠ ご使用上の諸注意

本機の性能を十分に引き出し、また安全にご使用いただくため、以下の点にご注意ください。

- 火災や感電等の危険を避けるため、湿気の多い場所や水のかかる場所で本機を使用しないでください。
- 火災や感電等の危険を避けるため、本機のカバーを取り外さないでください。内部にはお客様に調整していただく箇所はありません。
- 本機を、水のかかりやすい場所、湿気の多い場所で使用しないでください。また水がかかった時は、すぐに電源コードをコンセントから抜いてください。
- 本機を、暖炉やストーブなど熱源の近く、あるいは熱を発生する機器の付近で使用しないでください。
- 本機を、直射日光の当たる場所、あるいは低温になる場所で使用しないでください。
- 本機は指定された電源以外では使用しないでください。
- 本機のお手入れには柔らかい布をご使用ください。水やダストスプレー、溶剤、研磨剤、クリーニング剤等を筐体に直接に付けることは避けてください。

[設置について]

- オーバーヒート防止のため、本機の両側、ならびに上方には通気を確保する空きを設けてください。
- フロントパネルにはリモコンの受光部がありますので、ラック内に設置するような場合、フロントパネルが扉などで隠れてしまわないようご注意ください。リモコンは、赤外線ですから、ガラスなどは問題なく透過します。
- 電源と本体のそれぞれに付属のフィート(脚)を取り付けて、電源の上に本体をスタックして設置してください。



[接続の前に]

- 接続は、本機および接続する機器の電源コードをすべて抜いてから始めてください。

クイック・スタートガイド

[セットアップ/接続/操作]

※接続は、本機および接続する機器の電源をすべて切ってから始めてください。

※接続が完了してシステム全体に電源投入する際の順序は、ノイズ防止のため、[ソース機器]→[本機]→[アンプ]としてください。切るときは逆順です。

1. デジタルオーディオ・ソース機器の接続：

装備されたデジタル入力の形態に応じてデジタルオーディオ・ソース機器の接続を行ないます。

[Optical&Coax S/PDIF] CDトランスポートなどとトスリンクケーブルまたは同軸ケーブルで接続

[AES/EBU] CDトランスポートなどと AES/EBU ケーブルで接続

[Dual ProI2S] CAT-6(LAN)ケーブルを使って MSB トランスポートと接続

[Pro ISL] 双方向光ケーブルを使って、MSB PRO USB アダプターや MSB トランスポートの PRO ISL 端子と接続

[Quad DSD&MQA USB] USB2.0 ケーブル PC と接続

[Network Renderer V2]イーサネットケーブルでネットワークと接続

※本機はデジタルオーディオ・ソース以外にラインレベルのアナログソースの接続も可能です。但し、接続したアナログソースを再生する際は、後述のセットアップ・メニューにおいて、“Input Setup”の “Analog Input”設定を “On-Volume Controlled”、または、“On-Volume Bypassed”としてください。

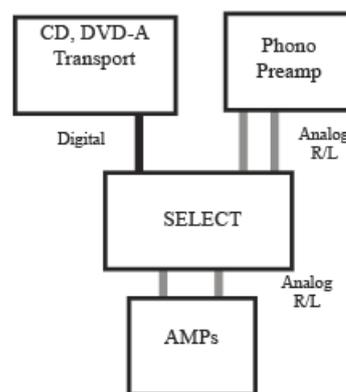
2. アンプとの接続：

本機のアナログ出力を直接パワーアンプにバランス(XLR)接続します。

※Select DAC は極めて高品位なパッシブプリアンプ機能を有しています。これは、一般のプリアンプを上回る特性とドライブ能力をもっていますので、既存のプリアンプを通すよりも直接パワーアンプに接続した方が最短距離で Select DAC 本来の高音質が発揮できるためです。

※本機のアナログ出力は XLR バランス仕様となっています。

シングルエンド出力とするには専用の[XLR to RCA Adapters (別売)] をご使用になる必要があります。一般的なバランス/シングルエンド変換アダプターは使用できません。



既存のプリアンプを接続する場合は、プリアンプ出力を本機のアナログ入力に接続し、セットアップ・メニューにおいて、“Input Setup”の “Analog Input”設定を “On-Volume Bypassed”とし、ボリューム調整は接続したプリアンプ側で行なってください。(→他の接続方法や設定などの詳細は 9 ページを参照)

3. 電源：本機は本体と電源(パワーベース[2x Select Powerbases])が別構成となっています。

本体とパワーベース間の DC 電源入出力(左右 2箇所)を付属の DC 電源コード 2本で繋ぎ、AC 電源入力に付属の AC 電源コードを繋いで AC プラグを壁コンセントに差し込むと電源スタンバイ状態となります(電源ランプが赤色に点灯)。

4. パワーベースの電源ボタンを押し電源 ON にすると、電源ランプの点灯が白色に変わり、本機は次のデフォルト設定状態からスタートします。

入力= “Manual with smart mode”(アクティブな入力に対しての手動切り替えが可能)、ボリューム=70 (-30dB)

※電源 ON の後、ウォームアップに必要な時間は通常 3~5 時間程度です。

5. デジタルオーディオ・ソースの再生を始めると、本機のディスプレイに入力サンプルレート(kHz;周波数)とビットレート(bit)が表示され、アナログ出力します。別の入力を選ぶ場合は入力切替ボタンで操作してください。

6. ボリュームノブ(またはリモコンのボリュームボタン)で適切な音量に調節してください。

※尚、プリアンプ出力を本機のアナログ入力に接続した場合はセットアップ・メニューで、“Input Setup”の “Analog Input”設定を “On-Volume Bypassed”にし、本機の入力は “Analog”を選択し、ボリューム調整は接続したプリアンプ側で行なってください。(→他の接続方法や設定などの詳細は 9 ページを参照)

[バーンインについて]

一般的にオーディオ機器は配線材やコンデンサーなどの特性により、機器がベストコンディションに達するまで音楽再生による「バーンイン」運転が必要です。そのバーンイン時間には最低 100 時間程度を要します。

リアパネル各部



- 入力モジュール・スロット 4 系統(A~D):

同軸/光、AES/EBU、PRO I2S(2 系統)、PRO ISL、Quad Rate USB、レンダラー入力など、各種入力モジュールを 4 系統までカスタマイズすることが可能です。

※モジュールの抜き差しは必ず電源を切った状態(スタンバイ)で行なってください。

※モジュールの取り扱いには細心の注意が必要です。モジュールは、金属ケースまたはアームレバーが配置されている前端のみに触れるようにし、絶対にモジュールの回路基板または背面コネクタには触れないようにしてください。静電気でモジュールと DAC に損傷を与える恐れがあります。

モジュールの取り外し、取り付けは、モジュールの下側についているレバーアームを操作して行います。取り外しは、レバーを引いてモジュールをゆっくりと引き抜きます。取り付けは、モジュールを溝に沿って奥までゆっくりと挿入しレバーを押して固定します。

- アナログ入出力(L/R):

ボリュームコントロール機能を有するバランス仕様アナログ出力モジュール(アナログ入力を併備)が標準装備されています。

- DC 電源入出力 x2 系統:

付属の DC 電源コード 2 本で(パワーベース[2x Select Powerbases])と本体間を繋ぎます。

- RS232

システムコントローラーで本機を操作する場合の端子です。

- トリガー: →10 ページ参照

- グランドジャンパー: →11 ページ参照

- AC 電源入力:

付属の AC 電源コードを繋ぎます。

入力モジュール

入力モジュール・スロット(A~D)には、6種類のデジタル入力*と追加のアナログ入力が全4系統まで装備できます。

*同軸/光、AES/EBU、PRO I2S(2系統)、PRO ISL、Quad Rate USB、レンダーラー

■アナログ入力モジュール(XLR or RCA)

追加のアナログ入力としてバランス(XLR)かシングルエンド(RCA)が装備できます。

装備した場合は、メニュー設定でボリュームコントロール可とするかバイパスするかを選べます。

アナログ入力モジュールの後からの取り付けは簡単ではないため輸入元で行いません。必要な場合は、取り扱い販売店にご相談ください。



■デジタル入力モジュール

※モジュールの抜き差しは必ず電源を切った状態(スタンバイ)で行なってください。

※モジュールの取り扱いには細心の注意が必要です。モジュールは、金属ケースまたはアームレバーが配置されている前端のみに触れるようにし、絶対にモジュールの回路基板または背面コネクタには触れないようにしてください。静電気でモジュールとDACに損傷を与える恐れがあります。

モジュールの取り外し、取り付けは、モジュールの下側についているレバーアームを操作して行います。取り外しは、レバーを引いてモジュールをゆっくりと引き抜きます。取り付けは、モジュールを溝に沿って奥までゆっくりと挿入しレバーを押して固定します。

OPTICAL/COAX S/PDIF&Word Sync Clock 出力

●RCA 端子による S/PDIF 同軸 75Ω デジタル入力と TOS LINK 端子による光デジタル入力端子です。

24/192kHz, 1xDSD(DoP)を受けることが可能です。

また、スタジオマスター用として低ジッターのワードクロックを送り出す BNC 端子も併備しています。



AES/EBU&Word Sync Clock 出力

●AES/EBU バランス 110Ω・デジタル入力端子です。

24/192kHz, 1xDSD(DoP)を超低ジッター/高解像度で受け取ることが可能です。

スタジオマスター用として低ジッターのワードクロックを送り出す BNC 端子も併備しています。



DUAL PRO I2S インターフェース

●PRO I2S インターフェースを装備する MSB DATA CD V TRANSPORT や UNIVERSAL MEDIA TRANSPORT V などと、専用の PRO I2S インターフェースケーブル(CAT6 LAN 仕様)で接続します。

32/384kHz PCM と 4xDSD を超低ジッター/高解像度で受け取ることが可能です。



<MSB Pro I2S>接続用
CAT-6(LAN)ケーブル



PRO ISL 赤外線レーザーインターフェース

●Select DAC に、双方向レーザー・インターフェース“PRO ISL”オプションモジュールを装着すると、最新の MSB トランスポートや PRO USB アダプターなどからの完璧なデジタル信号搬送が可能となります。MSB “PRO ISL”は、DAC 側からトランスポートや PRO USB に対して超低ジッターのマスタークロックを送って完全同期させた上で、L/R データとワードクロック、ビットクロックを分離したシリアルバス・データを



PRO USB アダプター/光ケーブル/PRO ISL

DAC に送り返します。光ケーブルにはシングルモード・デュプレックス・グラスファイバーを採用し超大容量/低損失の超高速通信を、そして、相互の完璧な電氣的アイソレーションを

行ないます。

32/768kHz PCM と 4xDSD (DoP), 8xDSD (Native) などのハイビット/ハイサンプルレートのデジタル信号を超低ジッターでビットパーフェクトに伝送する、まさに究極のデジタルオーディオインターフェースです。



Quad DSD&MQA USB

●USB2.0 で接続した PC や NAS などからの PCM と DSD 音楽ソースを D/A 変換することが可能です。⚠

・最大許容入力レートは次の通りです。

24/384kHz PCM と 2xDSD (DoP), 4xDSD (Native) を超低ジッター/高解像度で受けることが可能です。

⚠ USB2.0 (Class Two Audio) 接続で DSD/PCM のハイレゾ・ファイル音源の再生をするには、対応するミュージックプレーヤーソフトを PC にインストールする必要があります。また、Windows では専用のドライバーも PC にインストールする必要があります。(詳細は関連資料などをご参照ください)
尚、MAC ではドライバーインストールは不要です。



Network Renderer V2(レンダラー)

●LAN ケーブルでネットワークオーディオ機器(ルーター)に接続し、NAS などのサーバーにある音源をネットワークプレーヤーとして再生することを可能とします。24/384kHz, 2xDSD (DoP), 4xDSD (Native) までに対応しています。



システムクロック

MSB Select DAC には標準として世界最高峰の超低ジッター・ジッターを誇る“Femto 33 Clock”(ジッター性能 33 フェムト・クロック)が搭載されています。



FEMTO 33 Clock
ジッター値:33 FEMTO sec.(0.033 Pico sec.)

アナログ出力

ボリュームコントロール機能を有するバランス(XLR)仕様アナログ出力モジュール(アナログ入力を併備)が標準装備です。

オペアンプやバッファなどを使用することなくDACからの高出力をパッシブ・コントロールする Select DAC 独自の高ドライブ能力によって、高音質を極限にまで高めた圧倒的レゾリューションによる高 S/N を実現していますので、プリアンプを必要とせずダイレクトにパワーアンプを駆動できます。※



※もしどうしても、既存のプリアンプを Select DAC の出力の後に接続しプリアンプ側でボリュームコントロールする必要がある場合は、本機のボリューム設定を 94 としてください。最もノイズレベルが低い状態で、かつ、プリアンプのクリッピングも防止できます。

※本機のアナログ出力は XLR バランス仕様となっています。

シングルエンド出力とするには専用の [Isolated Analog Output RCA (別売)] をご使用になる必要があります。

一般的なバランス/シングルエンド変換アダプターは使用できません。

■このモジュールには、アナログ入力も装備されていますので、フォノアンプやプリアンプなどのアナログ入力を接続することが可能です。

尚、アナログ入力を有効とするためにはメニュー・モードで "Analog Input" メニューの設定変更をする必要があります。→メニュー操作はメニュー・モード(14 ページ)を参照。

"Analog Input" メニュー設定について:

アナログ入力を無効とする ("Off") か、有効とする ("On") かが設定できます。(初期設定は "Off" となっています)

また、On モードには、"On-Volume Contolled" と、"On-Volume Bypassed" の二通りがあり選択できます。

"On-Volume Controlled" は、Select DAC のアナログ入力に固定レベルのアナログ出力機器(例えばフォノアンプなど*)を接続した場合の設定で、アナログ入力に対するボリュームコントロールを Select DAC 側で行いません。

*Select DAC のアナログ入力にプリアンプを接続した場合でも、プリアンプ側のボリュームを最適レベルに固定し、Select DAC でボリュームコントロールする際もこの設定で行なえます。

"On-Volume Bypassed" は、Select DAC のアナログ入力にプリアンプ出力を接続使用する際の設定で、Select DAC のボリュームはバイパスし、アナログ入力に対するボリュームコントロールを接続したプリアンプで行いません。

パワーベース

Select DAC 本体にはアナログ系/デジタル系を分離した左右 2 つの DC 電源入力があります。
ここに、付属の DC 電源コード 2 本でパワーベース[2x Select Powerbases]から 1 本ずつ DC 出力を繋ぎます。

また、それぞれのパワーベースの下部・底面には、二つのコントローラーがあります。



- Power Control [N(Normal) – L(Linked)] :
N(左)は単独に ON/OFF できます。
L(右)は他の MSB 機器とトリガー接続して ON/STANDBY をリンク(連動)させることができます。
- Display Brightness: このノブを回すことでパワーベース電源ランプの明るさを調節できます。

●2 台のパワーベースにはそれぞれ電源ボタンが付いていて独立して ON/OFF できますが、これを一台のパワーベースの電源ボタンだけで一緒に ON/OFF を連動させることが可能です。

1) 2 台のパワーベースをトリガー接続します。下図参照

2) 電源ボタンの下部・底面には、二つのコントローラーがあります。



これを次のようにセットします。

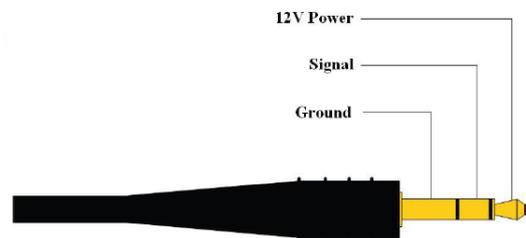
マスターにするパワーベースの Power Control スイッチを N(Normal) に、
スレーブにするパワーベースを L(Linked) に設定します。

3) 電源 ON/OFF の操作は、N(Normal) に設定したパワーベース側で行ないます。

■トリガー接続について:

2 台の電源ユニット相互のトリガー端子を、付属のトリガーケーブル(3.5mm ミニ 3 極フォーンプラグ・ケーブル)で繋ぎます。

※注意:この端子は MSB 製品同士のトリガー目的以外には使用しないでください。(この端子のトリガー信号には 12VDC が使用されていますので、特にイヤフォンなどは、破損の恐れがありますので、絶対につながないでください)



12 Volt Remote Trigger wiring.

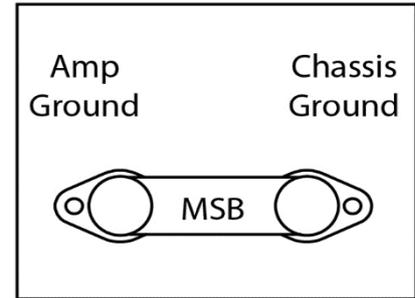
※AC 接続は、パワーベースの AC 電源入力に付属の AC 電源コードを繋ぎ、プラグを壁コンセント AC100V(50Hz/60Hz)に差し込みます。

グラウンドジャンパーの設定 (通常)

■グラウンドジャンパーについて

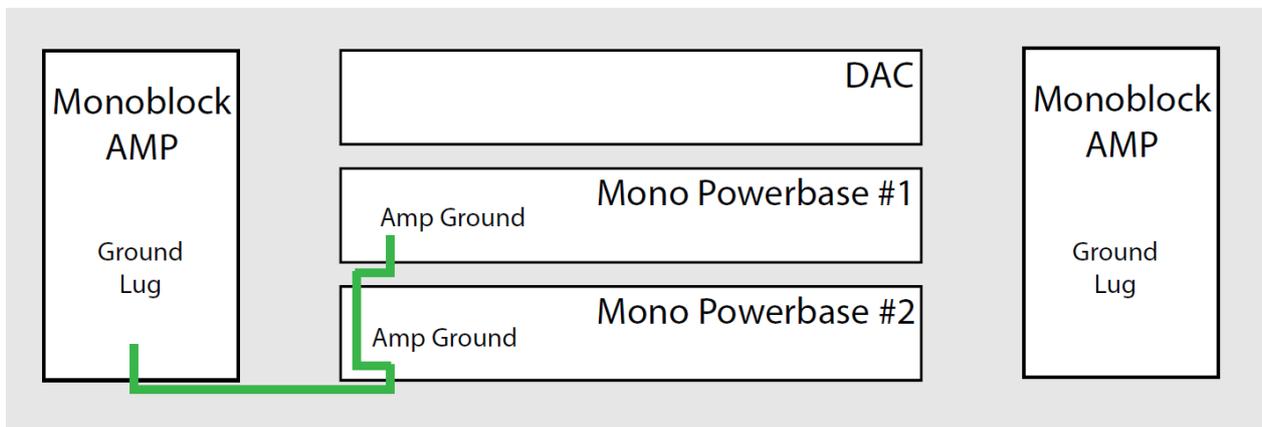
・工場出荷時はデフォルト設定として、グラウンドジャンパーが相互接続されています。
通常はこの状態で使用してください。

⚠ **ジャンパーを外したままの状態では絶対に使用しないでください。**



グラウンドジャンパーの設定 (グラウンドを別に結線する場合)

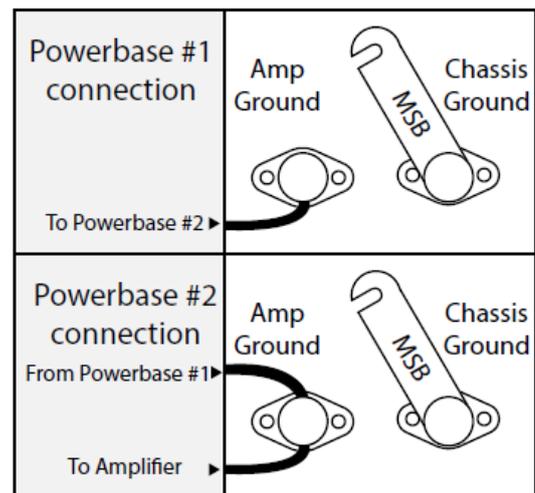
・発展的な使い方としてグラウンドジャンパーを外し、組み合わせるアンプとの間でグラウンドを結線することで、相互のアイソレーション効果を高め、音質改善が望める場合があります。



- パワーベースのグラウンドジャンパーを外します。
- パワーベース 1 の「Amp Ground」ラグからパワーベース 2 の「Amp Ground」ラグにアース線を結線します。
- パワーベース 2 の「Amp Ground」ラグからアンプのシャーシーグラウンド端子にアース線を結線します。

(アンプにシャーシーグラウンド端子がない場合は、アース線をシャーシアースに接続するのに最適な場所(シャーシーの留めネジなど)を探す必要があります。)

⚠ **絶対にアンプのマイナス側スピーカー端子にはつながないでください。アンプと本機が壊れます。また、保証対象外となります。**



操作



本体

■ **MENU** ボタン：各種動作モードを設定変更するためのメニュー・モードにアクセスします。
もう一度押すとセットアップを終了します。



■ **INPUT SELECT** ボタン：左矢印ボタン/右矢印ボタンで希望の入力を切り替えます。
AUTO 入力メニュー設定時では、有効なデジタル信号のある入力に自動的に切り替わります。
*メニューの操作中は、このボタンはメニュー項目の左右移動に使用します。



■ **MUTE / ENTER** ボタン：通常時はこのボタンは MUTE(ミュート)として機能。
また、メニュー・モード時は、ENTER(決定)ボタンとして機能します。



■ **ボリューム** ノブ：通常時はボリュームコントロールとして機能します(0~106)。100 がリファレンスレベルです。
メニュー・モード時は、このノブはメニュー項目の上下移動に使用します。



■ **DISPLAY** ディスプレー：左に選択された入力名を表示。右に入力デジタル信号のビット/サンプル周波数を表示します。中央にはボリュームレベルが表示されます。

パワーベース

■電源 LED:

白点灯: 電源 ON

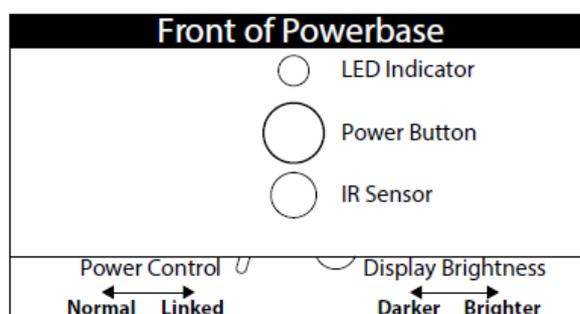
赤点灯: 電源 OFF(スタンバイ/バイパスモード)

橙点灯: 12V トリガーでコントロールされる Linked モード

橙点滅: 過電圧プロテクション

■ **電源** ボタン: スタンバイ ↔ ON の切替。

■ **リモコン受光部** : MSB リモコンからの赤外線信号を受信する窓。



※電源ボタンの下部・底面には、二つのコントローラーがあります。

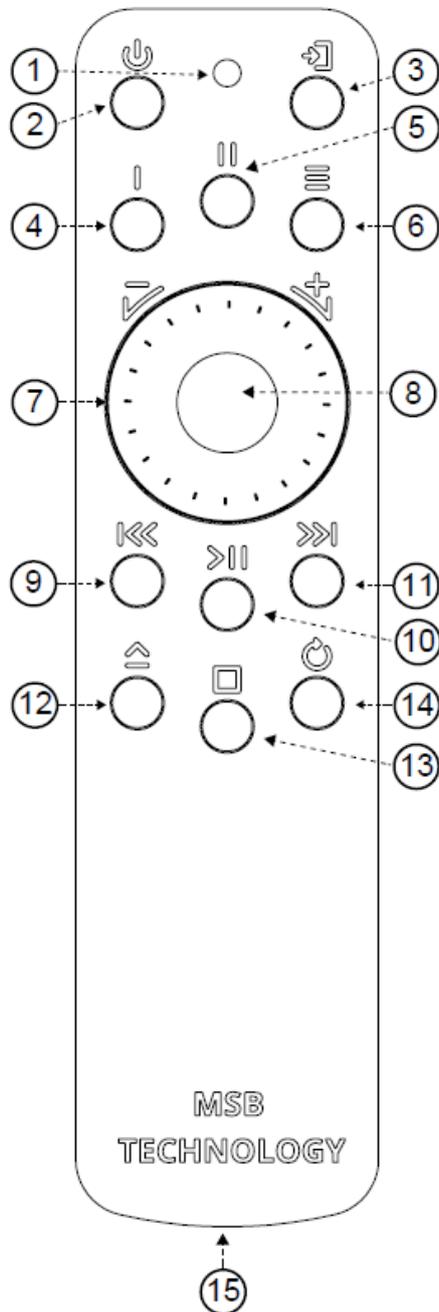
● Power Control [N(Normal) - L(Linked)]:

通常は N(左)に設定します。

他の MSB 機器とトリガー接続して ON/STANDBY をリンク(連動)させること場合は L(右)に設定します。⇒10 ページ参照。

● Display Brightness: このノブを回すことで、パワーベース電源ランプの明るさを調節できます。

リモコン



1. LED :

[操作時]

白点灯=リモコン操作によってコマンドが発信された時
赤/白点灯=コマンド発信時; 但しローバッテリー状態
赤点滅=バッテリー充電を必要とします

[チャージ中]

赤点灯=充電中
白点灯=フル充電完了

2. 電源 ON/OFF

3. 入力切替

4. 位相反転 Invert ON/OFF

反転(Invert)時はディスプレイに”I”表示

5. ビデオ (Video)モード ON/OFF

(ビデオソース再生時のリップシンク機能です)
ON 時はディスプレイに”V”表示

Note: 4.5 のアクションボタンの設定は、DAC がリセットされるか電源がオフになるたびにリセットされます。これらの設定をリセットまたは電源オフしても保持したい場合は、アクションボタンの設定後、メニューボタンを 2 回押してください。

6. MENU

本体の MENU ボタンと同一機能です。

MENU モードでは、ボリュームホイール(7)のアップ/ダウン操作が項目選択、ミュート(8)ボタンが ENTER として機能します。
メニューを終えるには、MENU(6)ボタンを押します。

7. ボリュームホイール

ホイールの円に沿って指を右に回すとボリュームアップ
左に回すとボリュームダウン

8. ミュート

9. - 14 までは MSB TRANSPORT 用の機能です。

15. バッテリー充電ポート

Micro-USB ケーブルでパソコンや USB 電源などに接続し
リモコン内部のバッテリーを充電します。

リモコンの充電

本機のリモート・コントローラーは、リチャージャブルバッテリーを内蔵しています。

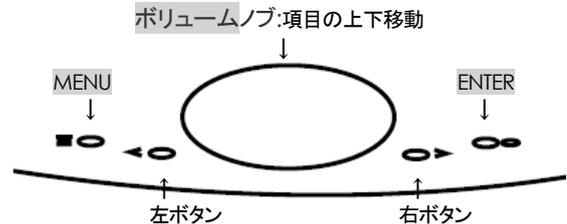
リモコン操作時、LED①が赤点滅した場合はバッテリー充電が必要です。バッテリー充電ポート⑮に Micro-USB ケーブルでパソコンや USB 電源などに接続して充電してください。

メニュー・モード

本機は、以下のように、デジタル処理におけるメニュー・オプションの設定変更が可能となっています。
メニュー操作時には各ボタンは右図の役割を受け持ちます。

●メニュー操作のしかた

1. MENU ボタンを押すとメニューがディスプレイに表示されます。
 2. 項目の選択は、ボリュームノブを回して行ないます。
 3. 選択した項目の設定を変えたい場合は右ボタンを押します。
(設定内容に→が付きます)
 4. ボリュームノブを回して変更したい内容を決めます。
 5. 設定項目が決定したら ENTER ボタンを押します。Saving の表示が出て設定が保存されます。
- ※MENU 操作を終了するには MENU ボタンを押します



●メニュー項目

■Display Brightness : (デフォルト= 8)

1 - 10 の段階でディスプレイの明るさを調整できます。

■Display ON/ AUTO OFF : (デフォルト= ON)

AUTO OFF を選ぶとディスプレイは通常非点灯となりますが、何らかの操作をしたときにのみ一瞬点灯します。

■DSD Mode : (デフォルト= Native)

DSD 再生のプロセッシング設定です。

Optimized: DSD を MSB 独自のメソッドでプロセッシングしてデコードします。

Native: DSD をプロセッシングなしでダイレクトにデコードします。

■Startup Volume : (デフォルト= 70)

電源 ON 時、最初のボリュームレベルを設定できます。

■Input Switching : (デフォルト= Smart)

"Manual with smart mode" の設定では、電源投入時に最初に検出されたアクティブな入力を選ばれ固定されます。入力ボタンを操作しない限りこの入力は切り替わりません。また、アクティブな別の入力がある場合には入力ボタンで手動切り替えが行なえません。

"Auto with smart mode" の設定では、上記と似てはいますが、別のアクティブな入力は自動で選ばれます。

"Auto with all inputs" の設定では、装備されている入力が自動で選ばれます。

※入力モジュール・スロットは D~A の順に自動選択時の優先度が高くなっています。

■Restore Setting : メニュー・オプションの各項目を出荷時初期設定に戻します。

■Analog Input : (デフォルト= Off)

アナログ入力を無効とする("Off")か、有効とする("On")かを設定できます。

尚、On モードは、"On-Volume Contolled" と、"On-Volume Bypassed" の二通りから選択できます。

"On-Volume Controlled" : Select DACのアナログ入力に対してボリュームコントロールを有効とします。

"On-Volume Bypassed" : Select DACのアナログ入力に対してボリュームコントロールを無効とします。

(以下は確認のみで設定変更はできません)

■SN : XX-xxxxxx : 本機のシリアル番号、その他を表示

■DAC Software Rev : 本機のファームウェア番号を表示

■INA - IND : 入力スロット A から D までに現在装着されている入力モジュールの形式を表示

■Output Module : 装着されている出力モジュールの形態(XLR または RCA)と出力インピーダンスを表示

トラブルシューティング

- 音が出ない/ディスプレイのサンプル周波数表示が出ず"No Signal"と表示される：
デジタル入力が見つからないことを示します。入力切替を確認してください。入力切替が正しい場合は、接続したデジタルケーブルや、接続先のデジタルソース機器(CDトランスポートなど)のデジタル出力設定などが適正かどうかなどをチェックしてください。
- 音が出ない/ディスプレイのビットレート欄に"0 bits"と表示される：
デジタル入力は検出されていますが再生状態ではないことを示します。ソースが再生可能なものであるかどうかチェックしてください。
- 音が出ない/ディスプレイにはサンプル周波数とビットレート表示がされている：
電源ユニットと本機をつなぐDC電源コードがきちんと接続されているかどうかをチェックしてください。
アナログ出力が正しくアンプに接続されているかどうかチェックしてください。
ボリュームコントロールが下がっていないかどうかチェックしてください。
- 大きい音が歪む：
ボリュームレベルが適正かどうかをチェックしてください。接続したアンプの入力許容レベルを上回ると音が歪みます。
- ハイレゾ音源のはずがサンプル周波数48kHzなどと低く表示される：
ソース側のコンフィギュレーションがダウンサンプリング設定になっていないかどうかチェックしてください。
- USB接続で再生しない：
ご使用のPC及びミュージックプレーヤーソフトの設定が正しいかどうかご確認ください。
- MAC/パソコンで<Quad DSD&MQA USB>にUSB2接続したとき、2xDSDは再生するが4xDSDを再生しない：
<Quad DSD&MQA USB>入力のDoP形式でのDSDへの対応は2xDSDまでとなっています。Native形式でのDSDは4xDSDまで対応します。Windows PCからはNative形式の4xDSDが出力し再生できますが、MACからのDSDはDoP形式のみとなっているため4xDSDは再生できません。
- Windows PCで<Quad DSD&MQA USB>にUSB2接続したとき、再生が不調:
MSB DAC用の最新WindowドライバーがPCにインストールされているかどうかご確認ください、されていない場合はインストールしてください。
- USBダイレクト出力機能のあるNASから<Quad DSD&MQA USB>にUSB接続したとき4xDSDを再生しない:
NASのファームウェアが、MSB DACの4xDSD再生の認証を受けた最新のものにアップデートされていないことが考えられます。詳細はNASメーカーにご確認ください。
- アナログ入力で音が出ない：
本機のメニュー・オプションのInput Setupのデフォルト設定は"Analog Input" = "Off" (無効)となっています。アナログ入力を有効とするには、この設定を"On-Volume Bypassed" または、 "On-Volume Controlled"としてください。

"On-Volume Bypassed" は、Select DACのアナログ入力にプリアンプ出力を接続使用する際の設定で、アナログ入力に対するボリュームコントロールは接続したプリアンプ側で行ないます。

"On-Volume Controlled" は、Select DACのアナログ入力に固定レベルのアナログ出力機器(例えばCDプレーヤーなど)を接続した場合に、アナログ入力に対するボリュームコントロールをSelect DAC側で行ないます。

主な仕様

[Specifications]

- デジタル入力: 4 系統(A~D)のスロットに同軸/光、AES/EBU、PRO I2S(2 系統)、Pro ISL 光デジタル入力、Quad DSD&MQA USB、レンダーラー入力などのデジタルを装備可能
- 許容デジタル入力:
 - Toslink, Coax, AES/EBU: 24/192kHz, 1xDSD(DoP)
 - Quad DSD&MQA USB: 24/384kHz, 2xDSD(DoP), 4xDSD(Native)
 - Network Renderer V2: 24/384kHz, 2xDSD(DoP), 4xDSD(Native)
 - PRO USB(外付)+PRO ISL: 32/768kHz and 4xDSD(DoP), 8xDSD(Native)※MAC OSX では DSD は DoP のみ、Native は出力できません。
- アナログ入力: XLR バランス L/R、入力インピーダンス: 100k Ω 、最大許容入力レベル: 12V rms
- 最大アナログ出力レベル: 3.57V rms (対デジタル入力)、12V rms (対アナログ入力)
- 出力インピーダンス: 75 Ω
- ボリュームコントロール: 0~106 (ステップ:1dB)
- アナログ XLR 出力極性: Pin 1 = Ground, Pin 2 = Hot, Pin 3 = cold
- 電源: 100V AC, 50/60Hz
- 消費電力: 70W, 1W 以下(スタンバイ時)
- 外形寸法/重量: 本体,電源各 444W x 92H x 444D (mm) / 本体 16kg,電源 21kg
- 付属: DC 電源コード 2 本/ AC 電源コード 2 本 / 12xフィート(M6 ネジサイズ) / グランドワイヤー / リモコン / Micro-USB パワーチャージケーブル

※仕様は予告なく変更される場合があります。

保証

本機の保証はアクシス株式会社が行ないます。

同梱の保証登録カードに必要事項をご記入の上、ご購入後 10 日以内に下記宛にご返送ください。

折り返し、保証書をお送りいたします。

無償保証期間は 2 年間です。

保証についての詳細は、保証書をご覧ください。

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 2-34-27

アクシス株式会社

TEL 03-5410-0071 / FAX 03-5410-0622

AXISS

輸入発売元:アクシス株式会社 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 2-34-27 TEL:03-5410-0071 / FAX:03-5410-0622
E-Mail: post@axiss.co.jp Web: www.axiss.co.jp